京高特秘第二八〇五號

昭和十四年十一月七日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　京畿道警察部長

警務局長　殿

京城地方法院検事正　殿

李光洙等ノ朝鮮文人協會創立ニ關スル非難ニ關スル件

要旨

旣ニ李光洙等ノ發起ニ依リ結成セラレタル朝鮮文人協會ニ對シ[、]朝鮮人有識者間ニ在リテハ[、]朝鮮統治上ニ一大汚點ヲ胎シタル同友會事件ノ中心人物タル李光洙カ仝事件ノ公判中朝鮮文人協會ノ結成ニ狂奔シタルハ不謹愼モ甚タシク[、]彼ノ過去現在ニ至ル思想傾向ヨリシテ今回ノ行動ハ諒解ニ苦シミタル處ナルカ[、]仝協會ノ組織經過ヲ知ルニ及ヒ[、]彼カ同友會事件ノ判決ヲ目睫ニ控ヘ裁判官ノ同情ヲ得ヘキ手段ノ下ニ迎合的團體ヲ結成セルモノニ外ナラサルコト判明シ[、]一部會員間ニハ旣ニ李光洙ノ如キ刑事被告人ヲ初代會長トシテ推戴セルコトニ不満ノ意ヲ表明シ居ル旨洩ス者アリ

京城府内朝鮮人側文士李光洙、金文輯、朴英熙等カ文筆ノ動キハ其ノ影響スル處甚大ニテ[、]文人ニ於テ朝鮮人一般民衆ヲ皇國臣民化ヘ善導スルコトハ當面ノ文人ニ課セラレタル重大責任ナリトシ[、]此際報効ノ誠ヲ披瀝スヘキ趣旨ノ下ニ十月二十九日内鮮人ヨリ成ル朝鮮文人協會ヲ創立セル件ニ關シテハ旣報ノ處[、]朝鮮人有識者中同友會事件ノ中心人物タル李光洙ガ自己ハ刑事被告人トシテ公判中ノ身ヲモ省ス假令穏健團體ニモセヨ之カ結成ニ狂奔スルカ如キハ不謹慎モ甚タシトテ[、]左記ノ如ク非難言辭ヲ洩ル者アリ

右聞込ノ儘御參考迄報告ス

記

朝鮮統治史上ニ一大汚點ヲ胎シタル彼ノ同友會事件ノ中心人物タル李光洙カ[、]仝事件ノ公判中朝鮮文人協會ナル團體ヲ結成シ[、]刑事被告人タルノ身ヲモ省ス自ラ會長ニ就任シタルコトヲ聞知シ[、]實ハ彼ノ過去現在ニ至ル思想傾向ヨリシテ諒解ニ苦シムト共ニ[、]刑事被告人タル身ニシテ保釋出所中假令穏健ナル親睦團體ニモセヨ之ヲ結成シ而モ會長トシテ就任スルカ如キハ不謹愼モ甚タシキ行動ニテ[、]彼カ眞ニ皇國臣民トシテ覺醒シタリトスレハ昨今ニ至リ何モ事新ラシク斯種團體ヲ結成シ本府ノ大官迄擔キ出ス必要ナク[、]又該團體ノ結成カ極メテ唐突的ニ行ハレタル點ヨリシテ當時如何ニモ不自然ナルモノアルヲ看取セラレタルカ[、]最近ニ至リテ其ノ組織經緯ヲ知ルニ及ヒ[、]果セル哉[、]彼カ今回ノ行動ハ形式的ニ轉向ヲ表明シ銃後ノ國民的活動ヲ装ヒ因ヲ以テ仝事件ノ裁判官ノ同情ヲ求メントスル自己保身ニ過キサルコト判明[、]遂ニ彼ラシクモナク馬脚ヲ現ハスニ至レリ。卽チ李光洙ハ同友會事件保釋後頻繁ニ文人タル金文輯ノ來訪ヲ受ケ[、]當初ハ足下ニモ置カサル態度ヲ示シタレトモ[[1]](#footnote-1)[、]金文輯カ李光洙ノ事件關係ニ乗シ物質的援助ヲ求メムトスル野心アルヲ看取シ[、]仝人カ朝鮮文壇ニ相當ノ權勢アルヲ奇貨トシ仝人ヲ手先ニ使ヒ何事カヲ爲サムト決意シタルモノノ如ク[、]爾來兩名間ノ往復ハ卸ニ頻繁トナリ[、]客月十五日頃金文輯ハ李光洙ノ意ヲ亨ケテ三千里社主幹金東煥ヲ訪問シ[、]今回ノ文人協會創立計劃ヲ述ヘ同意ヲ受ケ[、]以下順次各文人間ヲ歴訪同意ヲ得タル模様ニテ[、]其ノ後仝月十九日金文輯ハ前記金東煥人文社社長崔載瑞等ニ對シ

先般御賛成ヲ得タル文人協會組織ノ件ハ鹽原學務局長ノ聞知セラルル處トナリ[、]仝局長ハ該計劃ニ痛ク感動セラレ[、]明日朝鮮ホテルニ一同ヲ招待スル旨御案内アリタルニ付出席セラレタシ

ト傳ヘ主ナル朝鮮人文士十五名ヲ集合セシメタリト謂フカ[、]要之仝會合ハ李光洙、金文輯ノ兩名ノ内誰カカ學務局長ヲ擔キ出シタルニ過キサルモノノ如ク[、]又十月二十日李光洙以下十六名ハ精動事務局會議室ニテ第一回發起人會席上ニ於テ李光洙が発起人トシテ其ノ趣旨ヲ述ヘ最後ニ協會結成後ハ國民精神總動員聯盟ニ加盟シ仝聯盟ノ指示ニ依リ活動スル豫定ナル旨述フルヤ某文士ヨリ

國民精神總動員聯盟ニ加盟ノ爲文人ノ組織ヲ爲スハ面白カラス[、]先ツ組織ヲ爲シ國民的立場ニ於テ活動スルコトニ依リ或ル期間ヲ經テ加盟スヘキナリト異議ヲ稱ヘ[、]更ニ十月二十三日第二回發起人會席上ニテ規約草案中幹事ヲ會長指名トナシアルハ不可ナリト述フル者アリ[、]結局擧手ニ依リ賛否ヲ問ヒタルニ選擧制希望者が絶對多數ヲ占メタル處[、]李光洙ハ遂ニ狼狽シ

本會ハ急速ニ結成セサルヘカラス[、]且ツ會長ト意見ヲ異ニスル幹事カ選出サルルコトアリテハ會務ニ支障ヲ生スルニ至ルヘシ

トテ一應決定セル議案ヲ各個別ニ泣落シノ方法ニテ承諾ヲ求メ當時旣ニ會長就任ヲ示唆シ又金文輯ハ第一回發起人會以來各會合ノ都度其ノ開會ニ先立チ

若シ本會ノ結成ニ反對意見ヲ爲ス者アラハ破壊ノ爲ノ野次ナリ□□□ト威嚇シ發言ノ機會ヲ與ヘサリシ趣ニテ[、]李光洙カ第二回發起人會席上金文輯ヨリ會長就任方ノ推薦ヲ受ケ同席者モ仝人ノ威嚇的言動ニ依リ已ムナク之ニ賛成スルヤ、李光洙ハ内心思フ壺ニ入レリト微笑シツツモ表面辭退ヲ装ヒツツ之ヲ承諾スル旨述ヘタル趣ナルカ[、]彼カ今回文人協會ヲ組織スル迄ノ行動ハ以上ノ如ク一ニ芝居ニ外ナラス[、]從テ這回ノ經緯ヲ察知セル會員中ニハ旣ニ李光洙ノ如キ刑事被告人ヲ初代會長トシテ推戴セルコトニ多大ナル不滿ノ意ヲ洩シ居レル者アリト謂フ

1. 「足元にも置かない」は「足元にも及ばない」と「下にも置かない」の２つの表現を混同していると思われる。「下にも置かない」は歓待するという意味だが、文脈から見て「足元にも置かない」は冷遇するという意味のようである。 [↑](#footnote-ref-1)